

と行かした。アメリカの海軍特務の制服は真
 白で中々立派である。それではじめて見たア
 メリカ^{海軍}の特務の制服に私は感動した。それ
 がマニコトヤ煙草を包装の紙がつらつら
 して立派なものにも感じた。

父が帰って来てその事を話すと父は「カー
 ルさんはやっぱりアメリカ海軍の情報特務な
 ったのか。昔カールさんが台北高校の先生の
 時によくハコに一諸に山登りに行くと言っ
 た。ハコは万が一カールさんのアメリカに頼
 る水の情報等集めていったら、一諸に行くのは
 おかしいと思ったので断った。ハコの判断は
 正しかった」といっていった。

二回目は1956年の末であった。この年私は
 インディアナ州にあるノートルダム¹⁵の化学科
 で修士となり、7月からカリフォルニア州の
 スタンフォード大学で博士課程(Ph.D.)に勉強に
 来た。地質学の教授のスカンク先生は元マニ
 カ一少佐海軍の日本の森村博士であった。そ
 れでその内に台湾と接点するアメリカ政府の

最高の王冠で数年台詞におられた。それで時々
 スカンク先生のお宅に遊びに行つた。スカン
 ク先生が「カール先生がスタンフォードのフ
 ーバ図書館で琉球史を研究しておられるよ」
 とおっしゃる。それでカール先生から了和介
 ニトメニトとつて会いに行つた。カール先
 生は私をみるなり「君、お父さんに教がよく似
 ている」とおっしゃつた。それで台詞のニと
 といふいろいろ遊んだ。カール先生は終戦後、台
 詞のアメリカ領事館の副領事になつた。その
 時二二八事件が起り、カール先生は非常に嘆
 慨して町に台詞人が中国兵に虐殺されるのを正
 映写したり、写真をとつたりした。それで国民党
 政府にまらば、アメリカ政府に抗議し、台
 詞の内政に干渉して望まぬアメリカ人を
 15
 から、台詞から追はつてくれ」といふ。カール
 先生はアメリカ政府から見解になつた。カー
 ル先生は「中国政府は私を嫌い、山道でい
 70を運転したから、谷から大子にトウツツで私を
 18
 坂から落とす入水しようとして殺そうとした」

読った。そして「二二八事件の時、アメリカ政府に台独人に有利なように報知した」とおっしゃる。

私は1945年5月31日の台北の大空襲が起きたかっただの。「台北での時、あの空襲の時、カーン先生が爆撃の指揮をしたという話をありますが、ほんとうですか」と言いました。カーン先生は大笑してその事について逃げるかっただの、私は話題を別の方に移した。

私の甥でカリフォルニアで医者をしていて杜武豪がいる。彼はカーン先生とよくつきあいがあり、台北空襲について話したことがあった。アメリカの爆撃機がフライイングのウーウー飛行機から出発する前に、カーン先生は爆撃に行く飛行士達について台北の町と説明した。万幸で大箱機は二のあたりになり、これは台独人地帯から爆撃するに当たって注意、指示したとの事である。

6. アメリカ空軍から見た台北大空襲

アメリカ空軍の記録を見ても台北空襲の記録が沢山ある。そこで私は1945年5月31日の台北の大空襲だけに絞った。写真は数枚あったが、爆撃中の空中から撮影した写真ではつまみしなものが多かった。総督府が焼け、煙がもうもうとこぼれているので、写真は遠くからつまみしな。もう70年たったころなので写真はつまみしなものが多く、台北史の研究上やはり大事な資料であると思う。

そこで私が特に参考にしたのはアメリカ空軍大佐 Robert A. Morgan の1945年5月31日台北・台北 (Taihoku, Formosa) 空襲のレポート「151-A-2」についてこの戦闘の物語り (Narrative of Mission, Number 151-A-2 Target - Taihoku, Formosa, May ³¹, 1945, 19th Bombardment Squadron, 22nd Bombardment Group) である。

写真

A. 本巻: 1945年5月31日, フォリッコン, シー-
シー飛行場。朝早く朝合ととる, 爆弾と
各編隊の爆撃機より落すのが目的。

高射砲による攻撃は予期する。

機長士: Robert A. Morgan

副"": Lt. Chuck Cutchfield.

Navigator: Lt. R. E. Grey (初めの^の戦闘)

Bombardier (爆弾投下) Lt. R. S. Edgar

Flight Engineer (航行士) Sgt. Lloyd Watson

Radio Operator (無線) Sgt. B. D. Oxley

Armorer Gunner (射撃) Sgt. Homer Reno

Top Turret (上の射撃) Sgt. Elmo Barron

Nose Gunner (前の"") Sgt. Curtis Brotherton

Tail Gunner (後の"") Sgt. Joseph Arnold

目標 台湾台北 (Formosa, Taihoku)

飛行時間 (シー-シー飛行場より) — 4時間

爆撃機 B-24J, # 42-100204.

Miss Leading (爆撃機 12つだけ

ニッテ ネ-4)

上空での編隊 — 普通通り

テスト — 機自鏡.

B. 台北の上空にて

B-24の他の編隊を見えみ子と高射砲の炸裂は相当多い。心の中で日本兵の高射砲の軌道が目標の上空にきた時には打たせよと指示をうける。目標の上空にきたら、⁵ 前の編隊に打った高射砲の破片、煙が非常に濃厚なので、ガルーゾーリ-の飛行機を見逃す程だ。爆弾を落とす降投しようとしたら、高射砲回(4)つの弾は次々早く4つの回りで破片が、砲片がエンジンを通り、飛行機の中に入りこんだ¹⁰ 来た。Chuck (副操縦士) がさう、右腕がこぼれた。Instrumental panel もめつてとちやうど Bob Edgar (Robert Edgar のこと、爆弾投下士) が爆弾を落とすために飛行機の上に乗ったとみられる¹⁵ ところと感ずる。

私はすくに操縦した。Grey (Navigator) に Chuck と^{呼んで} (操縦席から除き、床に寝かせた急ぎ) 当てるほどです。Chuck は私を手助けし、Flight Engineer の Lloyd Watson に爆撃機の砲台の具を²⁰ 見せるといふた。

5

10

15

20

無線電話と機内の通話設備が破片で壊された。右翼からガソリンが洩れ出しているのど、はじめは機内のガソリンタンクが破れたのかと思つた。ひまつとあ子とあるエンジンがやられたかも知れないと思ひ、Lloydにガソリンの洩れはどこから調べろと言ふた。しばらくしてあくに第四のエンジンがストップしてしまつた。あるのエンジンも故障してゐる。~~Throttle~~ Control が切れて、Crankcase の一部がこぼれ出している。計器を見ると 800 RPM (回転) で圧力が 35 インチになつてゐるので、計器の表示はあてにならぬと思つた。あるエンジンにほうまを効かしてゐる。フリッツにあるにはもう一つのエンジンが効かぬとためた。あるエンジンからガソリンが溢れて洩れ出している。あるエンジンを脱却させた。逆流してかま~~リ~~に火がつかないまうに頼りながら。こうするから私は台北より海の方に向ひ、もし墜落するならばなるべく沿岸に落ちたら、水上飛行艇が助けにくれからと思つてそうしよう

と1分。沿岸まで来た後、高さは手を4,000
 フィート(1200メートル)でその高さを維持していた。
 飛行機を軽くするなどの、機内の物で捨てる
 水は物は全部捨てた。その捨てる時間約5分
 5分間のみであった。

C. フリリッコンへ帰投

私は不時着の代わりにフリリッコンまで帰る
 ことに決めた。Chuckは重傷で腕がこぼれて
 213の医学的治療が必要であるのでフリ
 リッコンに戻ることにした原因である。

乗組員一団最善を尽くしてくれた。すべては
 まるで訓練のようであった。Bob EdgarとLt
 GreyはChuckに応急手当をした。

帰り途中Bob Edgar(爆弾投下手)が左の操縦
 席に坐り、飛行機を右へ右へと回った。私は
 破片で左足をやられ、包帯で出血をおさえた。

通話無線がこぼれたので、CW radio 1を使
 えないのでモールス符号で送信するしかなか
 った。私はこのルートを通ったことはあるが

念のため Ben Oxley (無線士) に ODM を 12
 くらいするように頼んだ。ODM というのは地上
 から向う先と誘導する方法であり、そと一
 番近い空港に向うようにして、医学救助ができ
 るように無線と打った。この誘導はうまく行
 った。台湾の沿岸から2時間飛行中、私は飛
 行機も 9,000 ft. (2700メートル) まで上昇するこ
 とができた。第3エンジンを動かすことがで
 きたので第1と第2の3つのエンジンで帰る
 ことができた。第2のエンジンが凍らないま
 うに頼った。これがこわい子なので、これ
 だけ破損したかわからないのだ。停機はそれ
 でもうまく行き北ファイリッソンの Laog という
 3,500 フット (約1000メートル) の滑走路と飛行
 場につくことができた。無線でコントロール
 タワーに飛行機は回転できるから一直線に
 着陸しないといけないから、そういう風に誘
 導してくると頼んだ。9000 フット (2700 m) まで
 落ちた時、車輪は hydraulic system が使われ
 て動かさないので手動で下さるしかない。

駅9
A.B



hydraulic system が効かるといので、翼の flap で
 着陸できるといので、降下スピードを落とすとい
 といけるい。滑走路のはしうには有利である
 ので、着陸と同時に機首をあげ、機尾がずつ
 と地面と接触するようにないといけるい。⁵
 つまり機尾を地面とくっつけて着陸するので
 機尾がブレーキの代りとなるのである。同時
 に機尾からエンジンを止めたので滑走路の
 200 ft (60メートル) の端の所で止ることができ
 た。Chuck が火災になったか、それとも OLC¹⁰
 かと叫んでいいるのが聞えた。

乗組員達は操縦席の前のガラスを割って
 Chuck を運び出し、タンカに乗せた。自分も足
 をやられて歩きな^いで、別な室から運ばれた。
 私は私に「神様ありがとう、貴方は私達と¹⁵
 一緒になつてくれよした。」 **写真10** ←

それで^{数百} ~~数~~ 機の ~~B-24~~ B-24 の内、一機が
 故障し、一人危殆一人軽傷であった。台北で
 はこの爆撃で^{数百} ~~数~~ 人位は殺されていいると思ふ。
 その上に地上の建物はひどくやられた。²⁰

やはり制空権を握った人は人の方が勝ちである。

この戦争、この爆撃で私達家族一同無事であったが、5月31日で死にさされた方々達に70年後の今日であらうか、謹んで表すの意を
表します。

5

10

15

20